



休諸國物語圖繪

四



ろとのまじりそめくしんまきまじりふくらわの半やも
 うらなきて。二日二夜そめくしんまきまじりふくらわの半やも
 陰影をいそよそりなると。本のはげしきつね。そつら
 ともまきそ和老のつねふしめ。おあ作らうの。つねふしりま
 まりといひまじり。二日二夜そめくしんまきまじりふくらわの半やも
 今またふくらわのまじりまきまじりふくらわの半やも。は
 じりまきまじりまきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 とあへまじりまきまじり。はげしきつね。そつら
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま

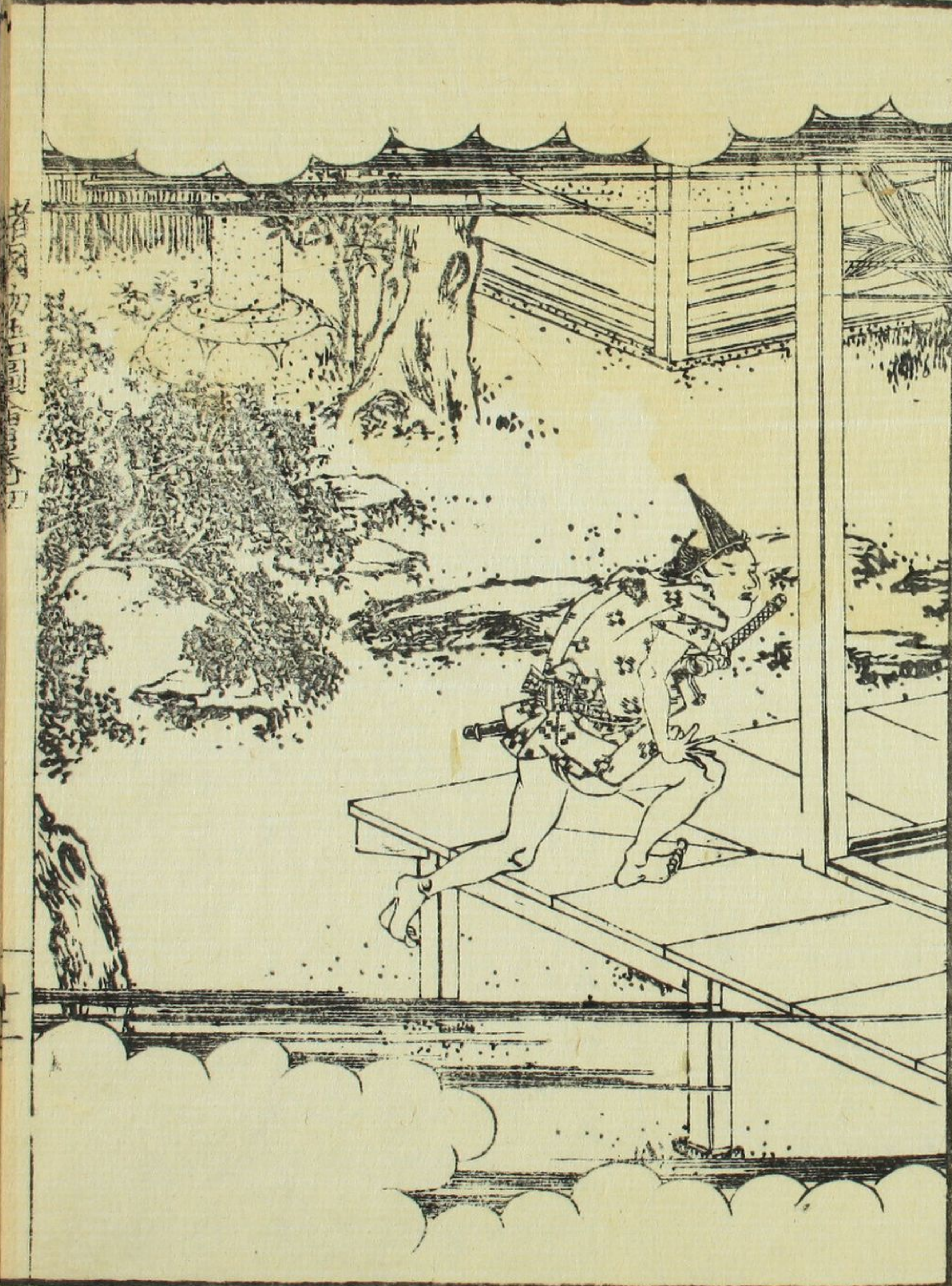
○
 のまきまじりまきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま

我希のまじりまきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま
 まきまじり。おあ作らうの。つねふしりま

りより百姓のつらみを辨別せしむ。百姓のつらみは、
 一は、（一） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（二） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（三） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（四） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（五） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（六） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（七） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（八） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（九） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、
 一は、（十） 賦税のつらみ。百姓のつらみは、



Amara D. Dharma L. 1. 1. 1.



老翁の如き口國會堂の口



老翁の如き口國會堂の口

○まふ一休の時代は時川新在傳つ尉親遠とて人ありけるが
 縁故もかやゆりてなやゆりたる。一休の縁故なる事を
 こそ乃ひて存仰とてのこす人としてあること一休の
 縁故へつづゆり。は東の鹿とわらへてくふお前和也
 出でしひき。うかろ人ぞと嘆ひまふ。やううもくす。
 他は傳りの方保まわりていとやうなれり。一休もやとひ
 〰〰〰〰

なんぢのいつる人ぞ
 國より來りてぬ
 あらういづくも
 いるとてのほろや
 りりての後はいふ
 ぶらうの半のゆり
 〰〰〰〰

そは日 和尙といふ
 鳥もかりて蒼のり
 しるまきと傳るる
 尾をゆりてぬ
 氣は城 野にけり
 水は流れて流るる
 〰〰〰〰

返歌

かまをまふまわし世にふかひのこも
 遠くをまわし一おももか

一おももかまをまわし世にふかひのこも
 本末のまわりの味うりりり
 〰〰〰〰

かまをまふまわし世にふかひのこも
 遠くをまわし一おももか
 〰〰〰〰

かまをまふまわし世にふかひのこも
 遠くをまわし一おももか
 〰〰〰〰

かまをまふまわし世にふかひのこも
 遠くをまわし一おももか
 〰〰〰〰

かまをまふまわし世にふかひのこも
 遠くをまわし一おももか
 〰〰〰〰

又洞 結集しあけりたりまわりのま

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

又洞 結集するそののふい

○ 一休和尚と奈良の... 結集するそののふい

言目抄言圖會卷四

南山嶽 新とててまふ
一休とてまふとてまふ
川とてまふとてまふ
ついでに新とててまふ
今ふあつとてまふとてまふ
どよとてまふとてまふ
新とててまふとてまふ
一休とての再興とて
は化の花とてまふとて
天竺とて 作川
森六の四波
あつとてまふとてまふ
まふとてまふ



世中の
命を
いふ
いのち
の
いふ
いふ
いふ



つらんとて沛家長久がんと。たをそくく。まはくま。
なほけつろけしつ。かこひく。物死のきかたりつう。それい
死すうふらさるる面す。一休を活佛とさうし。いひみ
せめく。るたまり

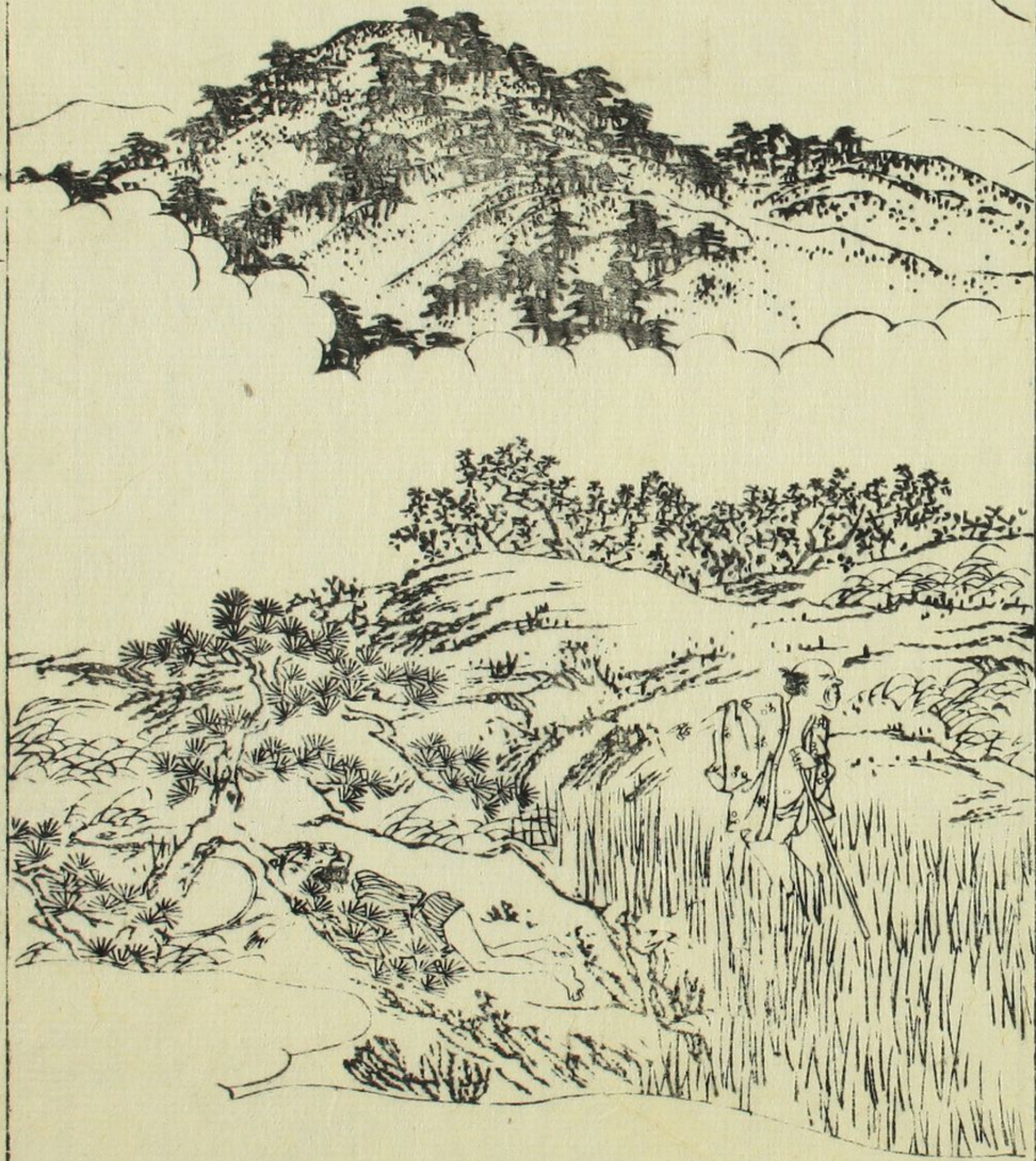
○まふ一休津のまら山里を過りつう。即人の山つら。一人
ち伏例あり。そつら細く。父まわり。よろそえうふ
ひやと毒地のもめこ。いひ。俄た死すう。父がげく。ききま
なく一休。らうら。つら。そのちうすはるものわら。いふおさ。
こま。我木のぬがり。そま。りめ。と持ま。さう。いふ。あふり
子。ら。俄た死すう。さふら。一人の命りり。りち。それい
ち。そ。ら。い。一休。ら。く。ら。つら。い。き。と。ま。父の。す
つら。の。ら。こ。い。う。あ。ま。ら。け。の。き。ま。さ。と
い。い。ら。ま。ら。男。さ。う。い。い。親。子。ま。夜。林。明。も。く。や。ね。ま
と。こ。い。い。け。ま。ら。親。子。の。ら。ま。り。の。ち。の。い。ら。も。や。ら。い。り。合

て夜つけそら。市へ。い。い。つら。つら。い。つら。の。ら。き。り。の。ら
か。ま。ら。う。け。く。ま。な。い。ら。ふ。心。や。一休。ま。ら。り。あ。い。の
家。ま。り。く。ん。の。ら。つら。と。女。房。ま。ら。つら。ふ。ら。ら。い。い。け。ま
即人の。ら。い。一。休。と。い。ひ。ま。ら。一。人。の。ら。い。い。い。一。人。の
ら。り。持。つ。あ。り。一。休。と。い。ひ。ま。ら。い。い。な。ん。ら。が。あ。い
い。い
な。げ。く。あ。い。か。い。一。休。作。ら。り。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い
他人の。ら。い。と。い
う。ら。い
い。い
要。本。の。ら。い。と。い
り。ら。ら。ら。市。ふ。ら。い
方。い
一。休。と。い

昔もなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ

まてあそびのやまにゆくべしともなふれど
かたじけなくもみだりにゆくべしともなふれど
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ

うせゐのやうふん持入合せもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ
いづれもなまきりものりつゝいづれもなまきりものりつゝ

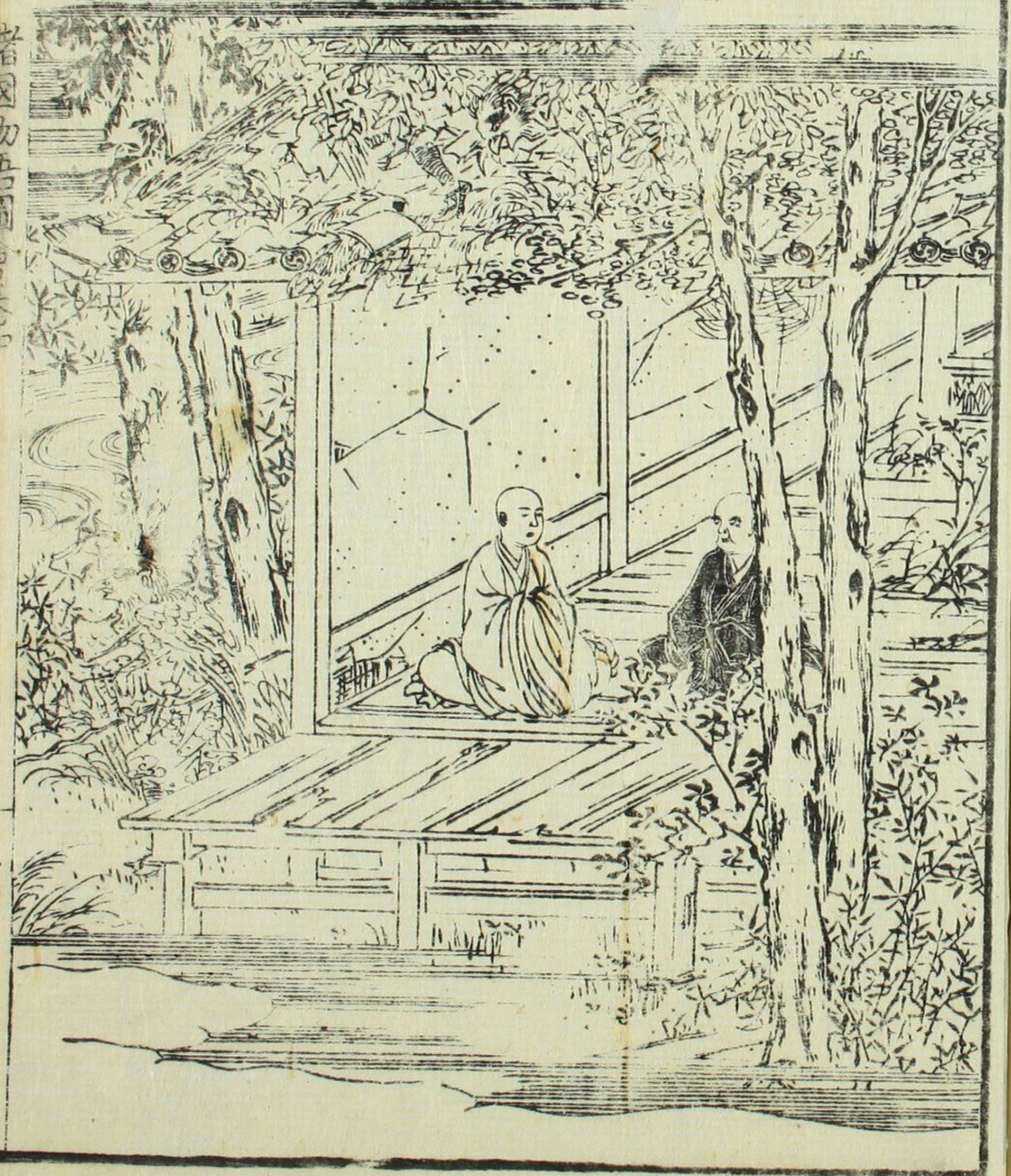


約乃中ふ
 あつた
 志しぬ
 音
 あつた
 えど
 林のよれ
 月
 三波上人



今はとあつてつせめくつての終る銀死なつてううそけい
 十月はゆくとあつてする家の女子目つと面つと持のまはし
 て今もあつてとみかアわもせしとるうううううううううう
 かり。らまへんく親のねん孫まむらぬをううううううううう
 あつてうううううううううううううううううううううう
 ○一休初意心のこさ秋後終つて終つてううううううううう
 信上ののううううううううううううううううううううう
 くら日のあつてうううううううううううううううううう
 ーやう。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 孝ふん大物ほつてううううううううううううううううう
 かり。その心うううううううううううううううううううう
 中つてうううううううううううううううううううううう
 華つてうううううううううううううううううううううう

信上の 湯沢山 天狗堂
 高



のまことさるふらうくわすらごち化たり。か老がのさるふらう
 ぬんのおよわりう隠岐の平とむすびんをまつらうわ
 くらうらふ。後平のあらうのふより人なるふ二十五年
 のまことさるふらうらむ。一休すのやとさひんるふふ
 老のうらふむらう入とえとちさゆきさげなるは師と
 子あつたかこのまふは師の二十五年人あは後とら
 てあつたけは師あつたうとをささとい出
 びんらうのあまをそぢいふらうかこまらうらう
 わらうあつたさうは師と一休とえとささうさ
 うらうらふこまらう出さうらう一休とえとささうさ
 かりとさして何の月とやと中さうらう。やう房の隠岐の
 平のむすびやうのあつたゆえんらう。さうらうの隠岐の
 おく平とえとさうらうゆえんらう。さうらうの隠岐の
 こまらうあつたさうらうまらむすびんるふらうさうらう

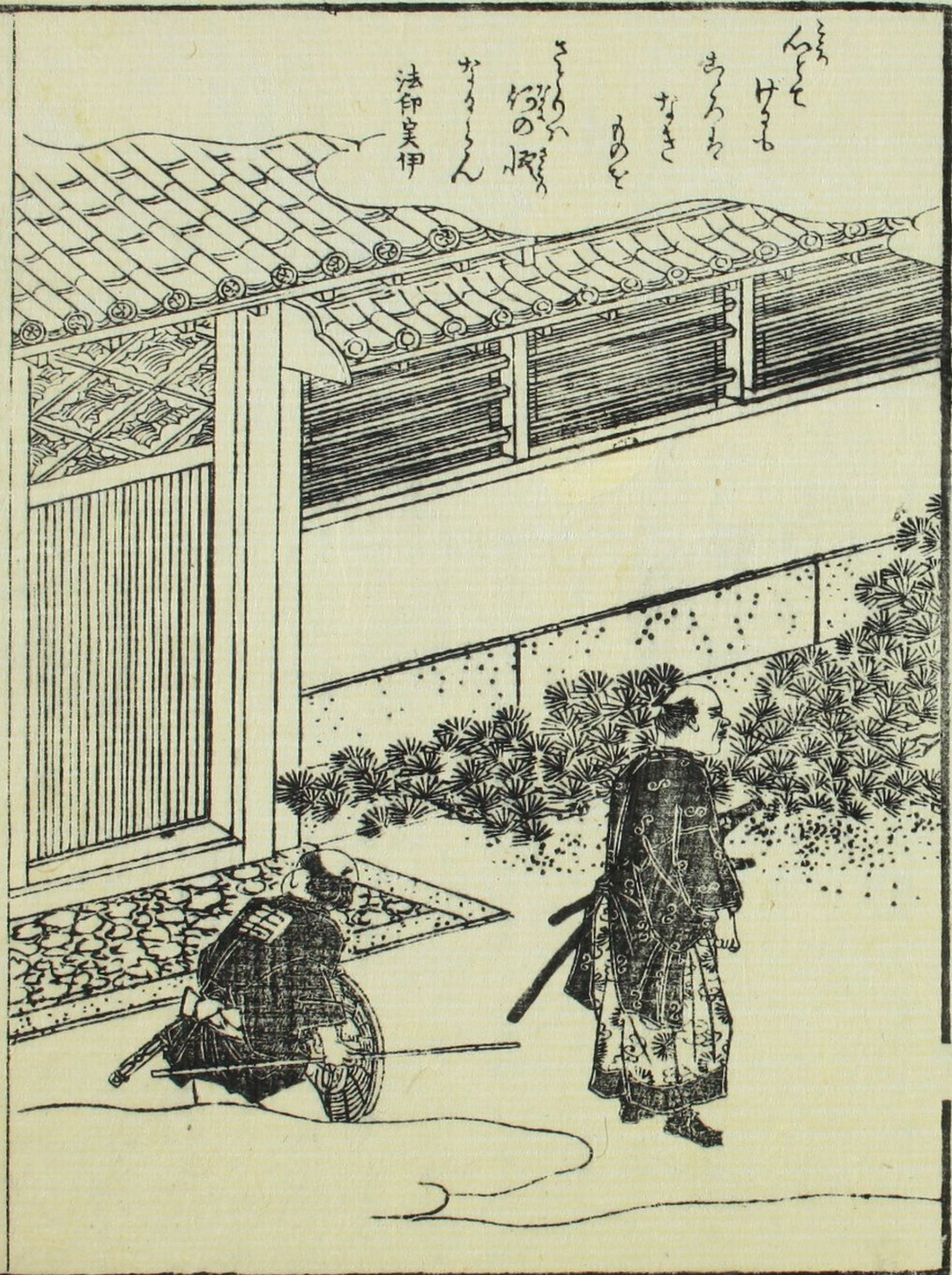
一休むすびんるふらう一休のまらむすびんるふらう
 そのうらうらう後とさうらうらう一休のまらむすびんるふらう
 がさふまらむらうらうらう

さて舟士の係中と申すはさうらうとあつたさうらう
 かりとえとさうらうとえとさうらうとえとさうらう
 後平のあらうのふより人なるふ二十五年人あは後とら
 てあつたけは師あつたうとをささとい出
 びんらうのあまをそぢいふらうかこまらうらう
 わらうあつたさうは師と一休とえとささうさ
 うらうらふこまらう出さうらう一休とえとささうさ
 かりとさして何の月とやと中さうらう。やう房の隠岐の
 平のむすびやうのあつたゆえんらう。さうらうの隠岐の
 おく平とえとさうらうゆえんらう。さうらうの隠岐の
 こまらうあつたさうらうまらむすびんるふらうさうらう

いづれに... け侍も... 山号の

○一休圓東の寺... け侍も... 山号の... け侍と... 山号の... け侍と... 山号の...

○又... け侍も... 山号の... け侍と... 山号の... け侍と... 山号の...



法印吳伊
かきしん
何の
かき
かき
かき



頼阿法師
かきしん
かきしん
かきしん
かきしん
かきしん

言問巻

雄ふ之枝のれあつとやうがまゝしてけはつづみの
 へとつて。唯とさきへらしや雄と先くぬし半やせつ
 しののえに枝つまうしん。死を共せんし我があまを
 かし半さぐひう。あくもふも夫婦の物あつこのと
 たれし人あつとまはらざる。救せよこのまを。つづきこ
 との命とさとせよ。業因のわづらおとろ
 しやと。ちかまらぬ。一徳のりくつて。ま
 けの我のあやまりとせんげ。心かそりもさぐせと
 まんとく。それは別髪。長衣のあなる。今だ居士とけ
 としけ。明るま念仏之味入半有家の年数とくわら
 ぬ縁榮へるとなり。そききは名とらうとと
 ちうらうらふいさけの傀儡作
 鬼とさき入とね出とよと

○さても周ふあつとつて。雄といふあつとつて。あつとつと

親子ひらふあつとつて。親子のまうとらうとらうと
 けりうら枝うとつて。あつとつて。入馬とる備の者
 わりうとつ半もあつとつて。さきとつて。有日とつて。親も
 まゆらとつて。有日とつて。さきとつて。親とつて。山
 うらとつて。親とつて。有日とつて。親とつて。山
 うらとつて。親とつて。有日とつて。親とつて。山
 うらとつて。親とつて。有日とつて。親とつて。山
 うらとつて。親とつて。有日とつて。親とつて。山

父母つとつてあつとつてのあつとつと

さきとつとつとすあつとつと



法印
実寿

山
 の
 雲
 の
 勢
 は
 驚
 天
 動
 地
 の
 如
 き
 也



山
 の
 雲
 の
 勢
 は
 驚
 天
 動
 地
 の
 如
 き
 也

俊成

○今出川通ふよりやや舟とらふものあり。あておるとまたど
ころ。石よりいづららるるき。舟半志げくく。人しく船
のりくを。舟よりいづららるる。文を志くめく
けの月半つひく。舟半志げくく。文を志くめく
り。舟半つひく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半つひく。舟半志げくく。文を志くめく

○舟半つひく。舟半志げくく。文を志くめく

と。舟半つひく。舟半志げくく。文を志くめく

○一体和尙る。舟半志げくく。文を志くめく

舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく
舟半志げくく。文を志くめく。舟半志げくく。文を志くめく

7 山秋葉落

5 山春閑花淡空

3 山迎連峰報佛心亦

山高迎都卒内院土進空

4 山開表華藏世叟地醒寂

山平迷臨化佛惱亦

6 山夏凉風煩寂

8 山冬素雪

かくのこころ 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 あふかざりてさそも 頼らるゝ 山合らるゝ 冬半なる年餘
 とらひ又月あまの 待の体りかこ 明らるゝ ひととふささく
 ささく 芝刈とほりて 一とさ半も そつひて 山信とら
 うのし半一くましくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

小山秋のたのしみうらや
 山高迎都卒内院土進空
 山迎連峰報佛心亦
 山平迷臨化佛惱亦
 山夏凉風煩寂
 山冬素雪

かんこころ 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 小文字のいかに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 さうをまゝのいかに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 なる一休和尚の書かたう 一とさ半も そつひて 山信とら
 こそ 愚者うらと うらゆるるふ 和尚の ひととふささく
 さま。いかにさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 こそさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 このあふ。一休とやく 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき
 たいまに 研付のまゝとゆうさくく 徳のうらや 一山のひびき

ふぶふ... 又遊... 一体... 大呷の... 弘法大呷活佛

とて... 弘法大呷活佛... 大呷の... 弘法大呷活佛

法圓... 四作



